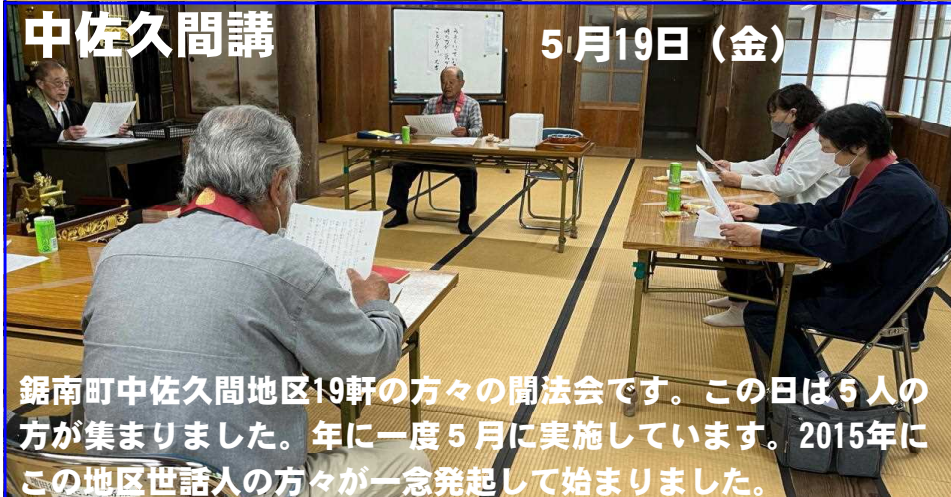




八日講十日講

6月8日(木)

寺の近くにお住まいの19軒の方々の間法会です。この日は8人の方が集まりました。年に二度1月と6月に実施しています。この地に寺が移転した17世紀初めから続いていると思います。



中佐久間講

5月19日(金)

鋸南町中佐久間地区19軒の方々の間法会です。この日は5人の方が集まりました。年に一度5月に実施しています。2015年にこの地区世話人の方々が一念發起して始まりました。

光といのち

第142号

— お盆 —

2023年8月1日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

HP http://syozenji.or.jp/

住職 釋孝昌(井上孝昌)

親鸞は父母の
孝養のためとて、
一辺にても念仏
もうしたること、
いまだそうらわす。
『歎異抄』

暑中お見舞い

申しあげます。

写真の「講」では、「正信偈」などをお勤めし、法話を聞き皆さんで語り合い、二時間ほどを寺の本堂で過ごしています。

「損得を忘れて寺参り」という言葉があります。寺は日頃私たちが常識としている損得勘定や善悪の分別などを横に置き、仏さまの感覚と発想を聞く場です。

それは、どういうことなのか。池田勇諦先生のお話しを見聞きページに掲載しました。ぜひ味わってください。

もし万が一、貴方様がこのような間法会を開きたいと思ったら、賛同者を一人見つけてください。私も含め三人の仲間が始めましょう。

「俺が死んだらたのむよ」と、年長者から言われることがあります。これは、「間法会はお断り」ということですね。しかしそれでは、人生が空しく過ぎ去ってしまう。

題字下は、親鸞聖人のお言葉です。「孝養」は供養、「一辺」は一度のことです。

親鸞聖人は「私は追善供養のために念仏したことは一度もありません」と、言い切っておられます。亡き人の幸福を祈り行う供養を追善供養と言いますが、浄土真宗は生きている「あなた」が対象です。

親鸞聖人は、二十九歳の時に法然上人から「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべし」と教えをいただき、「ついに念仏の息たえましましおわりぬ」と九十歳でお亡くなりになるまで、「ただ念仏」の人生でした。その人生を喜ばれて、和讃にこう詠まれました。

本願力にあいぬれば

むなしくすぐるひとぞなき

功徳の宝海みちみちて

煩悩の濁水へだてなし

(「高僧和讃」)

盂蘭盆会

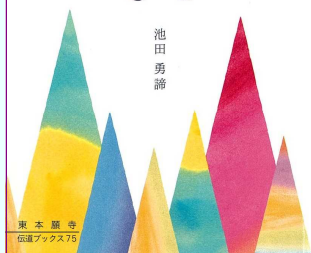
八月十日(水)

十時~十一時半

ズームで配信しますので、メールでお申し込みください。

親鸞聖人と 現代を生きる

池田勇諦



池田勇諦先生

■真面目とはなにか

今は亡き先覚せんかくのお言葉に「人間は真面目であることは大切であるが、真面目だけでは流転るてんするばかりだ」という一言があります。

私はこの言葉に接した時、自分の心に突き刺さるようなものを覚えました、「いったい真面目とはどういうことなのか」。それ以来、ずっとその問いを引きずってききましたが、とくに今日、私たちが身を置く時代社会のさ

まざまな状況を考えた時に、この一点が殊ことのほか思われてなりません。

こうして聞法もんぽうの場にお集まりのみなさん方は、一般的に言えば、いわゆる「真面目な方」ですね。「あのお母さんは真面目な人で」とか、おそらく周囲からは褒められ尊敬もされていらっしやる方々でしょう。ところが、教えに聞いていくとそうは言えなくなってくるのではないでしょうか。

人間にとって真面目であることは大事なことだというのは言うまでもないことですが「真面目だけでは流転するばかりだ」、この一言の持つ重さですね。ここでは「流転するばかりだ」と言われていますが、流転ということは、言わば「状況に流される」ということでしょう。真面目だけでは人間はその時々状況に流されるばかりなのだと。では、なぜ私たちは流転するのでしょうか。それこそは、親鸞聖人が終生問題にし続けられ

た「善悪の分別ふんべつ」のころ、この善悪の考え方が私たちの生きる立場になっっているからでしょう。

■人間にとってのもう一つの視点

では、そのもう一つの視点とは何かと言いますと、それが「真偽しんぎ」と言われるものです。真実か虚偽かということです。原発を動かすことは、現実主義からは善だから強調される。ところが、それが善であつても「偽」ではないかと。なぜなら、いかに「安全に」と言っても、安全ということはありえないし、人類と核の共存は成り立たないからです。この発想、この見識が仏さまの智慧ちえというものでしょう。親鸞聖人の『正像末和讃』にこういう一首がありますね。

智慧の念仏ぼんうることは

法蔵願力のなせるなり

信心の智慧なかりせば

いかでか涅槃をさとらまし

(真宗聖典五〇三頁)

信心とは智慧なのです。なにか信心と聞くと私たちは「ありがたい」とか「感謝」とか、そういったことをイメージしがちです。もちろんそうした心情をともなうことは言うまでもありませんが、本質的に信心は徹底して、智慧の念仏に賜る、仏さまの智慧です。何が人間を本当に主体的に生きさせるものか、反対に何が人間を没主体化し、骨抜きにして果てには非人間化する虚偽であるか、真実と虚偽というこの一点を問うていく感覚こそが信心の智慧、南無阿弥陀仏なむあみだぶつという智慧なのです。

私たちがこうして親鸞聖人の教えに遇あわせていただくのは、この南無阿弥陀仏の智慧によって、真実と虚偽きわの際を見据えていく道に立つことが要請されているからです。

真偽というもう一つの視点を賜ること。善悪の視点だけで生きるかぎり、私たちは流転するしかない。それこそ、状況に流されていくほかはない。真偽と

いうもう一つの、仏さまの智慧の視点を習うということが聞法するということに違いないのです。

■本当に人間を真面目たらしめるもの

私たちの日頃の生き方というのは善いか悪いかという考えに立った生き方です。そういう生き方の私たちですから、どうしてもそこに真偽というもう一つの視点を聞きひらかねばならないのです。人間を本当に目覚めさせるものは何か、逆に人間を眠らせるものは何か。生きる意味を問う者にとって、もっとも

大切な関心事である「真偽を問う尋ねる」姿勢、感覚です。

言葉をかえれば、これこそ「求道心」と言われる心でしょう。道を求める心はどこまでも真実を尋ねる心です。「真面目」という問題から言えば、この求道心こそ本当の真面目な心、真面目さなのでしよう。求道心ということ抜きにして、人間の真面目さは成り立たない。人間を本当に真面目たらしめるもの

は、この一点だと教えられます。

求道心に関しては、仏教では「菩提心」をはじめ、いろいろな言葉がございいますが、身近な言葉で言えば「聞法心」ですね。「ここに立つ以外にない」ことを習う（繰り返し学ぶ）心とも言えます。

では、仏法を聞けば私たちの善し悪しという考え方は消えるのかといえ、とんでもありません。そんな話じゃありません。真偽の感覚というのは、むしろ、「そこでは生きていない私だった」ということはつきりさせられる仏智への帰依に賜っていく感覚なのです。どこまでも自分の善悪のはからいでしか生きていない、だから目先の都合しかわからない。そんな生き方を一瞬一瞬知らされていく。その意味で仏法は、一瞬一瞬、一念一念のことであります。

■仏法に生きることは「闘い」の生活

私は門徒さんに日頃「お寺参りと言いなさるな」と言ってい

ます。「お寺参り」という言葉は好きなのですが、「お寺参り」と言った時に連想されるものを考えると、どうもこの表現には引っ掛かりをおぼえますので、私はあえてそう言っているのです。そうすると、門徒さんから「それならどう言ったら良いのですか」と問われますので、その時私は「今日は生涯学習の教室に行ってくると言ってくるのだ」と言うのです。みなさん方がこの場に来てくださったということは、生涯学習の教室に来てくださったということなのです。

昨今は高齢化社会で生涯学習ということが大変盛り上がりつつありますが、そういった生涯学習の根本になるのがまさに聞法ではないでしょうか。

真宗のお寺というものは他宗のお寺とは違って、蓮如上人によって「聞法の道場」という存在意義がはっきりと樹立されました。ですから、みなさん方は生涯学習の教室に出てきておられるということを、くれぐれ

もお忘れにならないでください。そして、この教室に出てくるためには時間を拵えていただくなければなりません。そこまでの自覚を、私たち一人ひとりはつきりと持たなければならぬということが要請されています。

池田勇諦先生のご法話を文章化した『親鸞聖人と現代社会を生きる』から抜粋しました。

それこそ私の「善悪の分別」で抜粋しましたので、大事なことが抜け落ちていくに違いありません。この冊子は、「伝道ブックス75」として東本願寺出版から定価二百七十五円で出版されています。ぜひ、お求めになり熟読してください。

先生のこのお話し最後に「全国にたくさんのお寺や別院といった形を先人たちが残してくださっている」といことは、どうか一人でもこの教えに遇って、確かな生き方、歩みをしてほしい。そういった願いの形に違いありません。」とありました。

寺を預かる住職として、この願いを皆さんに伝えていく責任と使命を今感じております。

念珠



仏さまを礼拝する聞法会・法要・通夜・葬式・法事には、必ず念珠を手に掛け合掌しましょう。

「仏さまを手づかみにするな」という言葉があるように念珠を手に掛けない合掌は、マナー違反です。

仏事でわからないことは、お尋ねください。

勝善寺奉仕作業 6月11日(日)



草刈りとガラス拭きなど、お疲れさまでした。

朝方まで雨が降り続き、延期しようかどうか迷いましたが、決行しました。

「安全第一で。そして熱中症にも気をつけ無理せず」とお願いしましたが、皆さん若い心で頑張ってくださいましたので、予定した以上の作業が無事終了しました。

前列右から(敬称略)

吉田 誠 久保田 守

田中 昭一 田村 晋一

足達 崇 川名 喜昭

明石 義久 重田 和夫

明石 圭司

二列目

三堀 清 高梨 和雄

富永 清人 田中 誠

川名 利幸 富澤眞知子

三列目

黒川 敦子 中山 秀巳

川名三枝子 北村 洋子

四列目

姫松 信子 堀海 榮子

大胡登美子 長谷川吉枝

石井 久

五列目

重田明美 坊守

写真に写っていない参加者

朝倉 和利 狩野 昌也

住職

「予定ください」

孟蘭盆会 8月10日10時

秋彼岸会 9月23日10時

役員会 10月1日13時30分

仏教を聞き語り合う会

10月8日13時30分

世話人総会 10月22日13時30分

仏具磨き 11月13日13時30分

報恩講準備 11月17日13時30分

速夜 15時

晨朝 18日6時

日中 18日10時

勝善寺聞法会

除夜の鐘 12月10日13時30分

修正会 12月31日23時45分

八日講十日講 1月2日10時

仏教を聞き語り合う会 1月8日9時

春彼岸会 2月11日13時30分

花まつり 3月20日10時

仏教を聞き語り合う会 4月7日13時30分

中佐久間講 5月12日13時30分

八日講十日講 5月30日13時30分

奉仕作業 6月2日9時

勝善寺聞法会 6月9日8時30分

6月9日13時30分